

営業報告書

第5期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

(1) 主要な事業内容、営業所及び工場、株式の状況、従業員の状況その他の会社の現況

当社は引き続き翻訳事業を中心とした事業展開を行いました。前期に見られたような特注がなく固定資産の購入も行ったため初の減収減益を迎えました。しかしながら、減収減益は当初より予定されていたものであり、前期末の当期予測を大きく上回る結果となりました。また、重要顧客のリピート率が依然として非常に高く、安定的の収益を確保しております。

営業所、株式、従業員の状況については、変化はありません。

(2) その営業年度における営業の経過及び成果

今期の売上高は前年比で**6.9%減**となりました。しかしながら、継続的に営業活動が続いていたことが功を奏し、アフィアブランドの知名度も上がってきたため問い合わせ件数は上昇傾向にあります。

利益につきましては、固定資産の購入に基づく減価償却費の増加などにより営業利益は前年比**51.6%減**、純利益は**28.4%減**となりました。

財産の状況は引き続き良好であり、キャッシュフローに関する問題は見られません。長期・短期ともに借入はなく、未払金についても現預金で容易にカバーできる範囲となっております。

(3) 親会社との関係、重要な子会社、その他の重要な企業結合の状況

該当なし。

(4) 過去3年間以上の営業成績及び財産の状況並びにこれについての説明

今期は当社の第5期となりますが、過去3年間を通じて非常に安定した事業を展開しております。当期におきましては前期に見られた大型の特別受注がなかったため減収減益と



afia

なりましたが、当初の業績予想を大きく上回る結果となりました。また、前期と同様財産・キャッシュフローの面も健全であり、引き続き借り入れも行っておりません。

(5) 会社に対処すべき課題

今期におきましても、引き続き注文が殺到し、対応しきれなかったため機会損失が生じておりました。外注先は増えてきたものの、品質向上が難しく社内の確認・修正作業が増える一方となっております。また、社内における翻訳マネジャーの育成も課題となっております。

なお、来期には特別受注が 1 件予想されておりますが、上記の課題から今期に比べ減収減益となることが予想されます。

(6) 監査役の会社における地位及び担当又は主要な職業

当社の監査役は社外監査役であるため、客観的な判断を下せる立場にあります。また、当社は新会社法上の小会社であるため監査役の業務は会計関連の監査に限られています。

(7) 上位 7 名以上の大株主及びその持株数並びに当該大株主への出資の状況

代表取締役社長・岡本武士が当社の全株式を保有しています。発行済株式数は前期と同様、20 万株となっております。

(8) 主要な借入先、借入額及び当該借入先が有する会社の株式の数

該当なし。

(8 の 2) 一定の事由により取得した自己株式につき、その営業年度中に取得したものの種類、数及び取得価額の総額並びにその取得したものが上場株式等でないときにはその売主、その営業年度中に処分又は株式失効の手続をしたものの種類、数及び処分価額の総額並びに決算期において保有するものの種類及び数

該当なし。



afia

(9) 決算期後の生じた会社の状況に関する重要な事実

該当なし。

以上、平成 19 年度（第 5 期）の営業の状況に関して報告致します。

平成 20 年 5 月 28 日

アフィア株式会社
代表取締役社長

岡本 武士